

介護を考える映画上映 & 講演会

ぴあ映画
初日満足度1位
(11月3日ぴあ調べ)

文部科学省
特別選定映画

厚生労働省
推薦映画

日本医師会 推薦
公益社団法人 日本看護協会 推薦
公益社団法人 日本介護福祉士会 推薦
公益社団法人 認知症の人と家族の会 推薦
広島県知事推奨

認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私

ぼけますから、



よろしくお願ひします。

ドキュメンタリー映画

入場無料

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録

6/25(火)

映画 13:30~

講演 15:25~

詳細は裏面を
ご覧ください

信友直子監督

特別講演あります



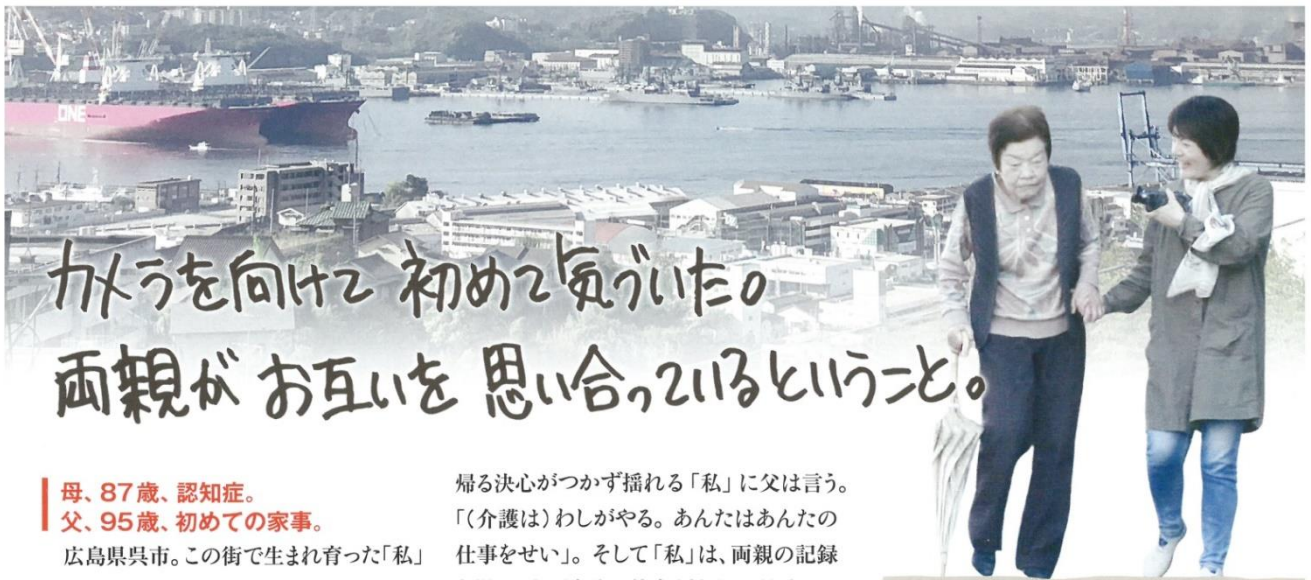
監督・撮影・語り

ひとり娘

信友直子

プロデューサー：大島新 濱潤 共同プロデューサー：前田亜紀 堀治樹 山口浩史
編集：目見田健 実景撮影：南幸男 音響効果：金田智子 ライン編集：池田聡 整音：富永憲一
配給宣伝協力：ポレポレ東中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給： NetzGen フジテレビ 関西テレビ
2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願ひします。」製作・配給委員会

www.bokemasu.com



カメラを向け、初めて気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。

**母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナードーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリングの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

大反響のテレビドキュメンタリー、 待望の映画化。

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子



1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



涙涙。椅子から立てないくらいの衝撃でした。(56歳女性)

いまだに涙がとまりません。
思いやりが人生を豊かにすること。
忘れずに生きていきたいです。(49歳女性)

まるで家にお邪魔しているように。
心がキューっと苦しくなったり、
ぼっ、と心が温かくなったり。(29歳女性)

お三方の声のなんと優しいこと。
こんな優しさに満ちた声の響きを
聞いたことはありませんでした。(74歳男性)

番組にいただいた
感想の一部です

考えさせられます。夫婦とは家族とは老いるとは…
娘さんの泣きながらの撮影にもらい泣きました。(55歳女性)

日時 2019年 **6月25日(火)** **入場無料**

映画上映: 13:30~15:15

特別講演: 15:25~16:10

場所 甲田文化センター ミューズ

主催 安芸高田市/健康長寿課/人権多文化共生推進課甲田人権会館

協働 安芸高田市人権協会・世界人権宣言甲田実行委員会

【お問い合わせ 甲田人権会館 ☎お太助けフォン:45-4922】

☆「西日本豪雨災害写真パネル展」開催(6/25~6/28同会場、7/1~7/4 たかみや人権会館)